

#### 4番（小川義昭君）

いずれにしましてもしっかりと市長がうたわれている「市民参加の開かれた市政」、そういった市政でございますので、今後しっかりと市民の皆さんと十分に協議を重ね、そして合意を得ていただきたいと思っております。

それでは、最後の質問に入ります。

最後に、作野市政の任期半ばに当たって、前の質問と重なるところもありますが、追加してごつくばらんにお尋ねいたします。

作野市長は就任当初、「対話を通した市民参加の開かれた市政運営」を基本理念にうたわれ、早2年が過ぎました。この間、市長御自身の一生懸命の御奮闘を自負されておられることでしょうか。しかし、立場の違う市議会議員の私には、市民の皆さんから市長に対するいろいろな遠慮のない声も聞こえてきます。

少し拾い上げてみます。

白山市の将来像が見えない。就任時には合併効果による実効性のある新しい施策に取り組むと言いながら、市民生活には反映されていない。白山市の理念・ビジョンが感じられない。22年間の市・県議会議員としての行政経験が生かし切れていない、との声であります。

市長はこうした市民の声をどう受けとめられるでしょうか。市長には市民からどんな声が聞こえるでしょうか。

市長の就任当時の市政に対する現状認識と、2年後の現在の市政認識に何らかの違いを感じられませんか。これまで2年間の市政の自己評価と、これからの任期後半への課題、あるいは抱負はいかなもののでしょうか。任期半ばの節目の御答弁を御披露いただければ幸いです。